

## クモノスヒメゴケの嚢果に就いて

瀬木 紀 男\*

T. SEGI: On the cystocarps of *Herposiphonia tenella* OKAM.

本邦産ヒメゴケ属 *Herposiphonia* の一種として、かつて岡村博士はクモノスヒメゴケ *Herposiphonia tenella* (C. AGARDH) NAEGELI なる種を詳細に報告された。該種は四分胞子嚢を有する無性体のみにつき査定記載されたもので、有性体については未知のまま今日に至っている。然るに筆者が今般調査した愛知縣伊川津産の豊富な材料中に、幾らかの重要な嚢果相当数を有する雌性体を見出し精査した結果、本邦産のクモノスヒメゴケは外國産の *H. tenella* (C. AGARDH) NAEGELI とは全く異なつたもので、新種 *H. terminalis* SEGI とすべきことが最も妥當なりと判断するに至つたので之の概略を述べたいと思う。

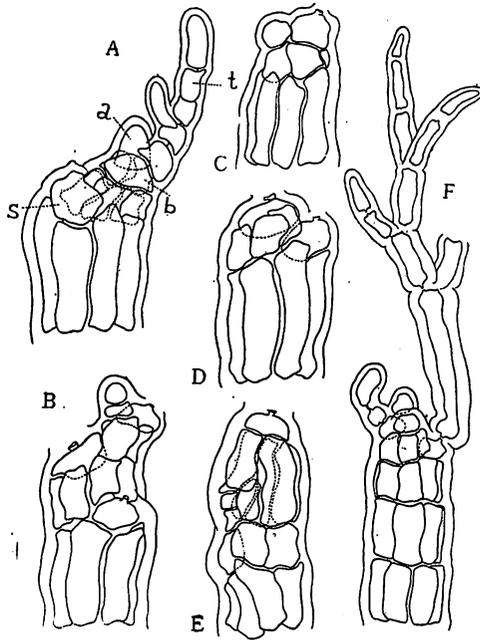
伊川津産の本海藻はアマモ *Zostera marina* L. の葉上諸所に附着して叢生する毛狀の紅藻にして、体の構造は岡村博士の記載及び圖 (日本海藻誌, 1936, p. 870; 圖譜 VI, p. 22, 23 頁, 264 圖版, 1~9 圖) と全く一致し、同一種の植物と思われる。

本植物体の毛狀葉 *trichoblast* は短條 (又は長條) の先端部にのみ各關節に一本宛、少數 (1~3 本) 連続して左巻きに生ずる。毛狀葉の基部には、周細胞と明らかに區別し得る圓き塊形の基部細胞 *basal cell* が存在する。毛狀葉は 1~3 回分岐し、細長く、50~600  $\mu$  (平均 230  $\mu$  位) 長く、6~20  $\mu$  太く、基部の方に太し。以上は短條にある場合であるが長條の場合は之より可なり短かくして 30~250  $\mu$  (平均 140  $\mu$  位) 長く、8~22  $\mu$  太し。通例早落性にして、基部細胞 *basal cell* は明瞭なる永續性の痕跡細胞 *scar-cell* として残存する (第 1 圖参照)。基部細胞又は痕跡細胞及び頂端細胞は何れも徳利形の中軸細胞から形成される。

プロカルブ及び嚢果の形成過程は、本材料に於いて漸くにして觀察し得た。即ちプロカルは短條の最先端に生ずる毛狀葉の第二の關節に生ずる。短條が

\* 三重縣立大學水産學部

9~11 關節を有する迄に成長すると、先端部に毛狀葉が出来はじめ、それが出来る時枝の先端の伸長は停止される。中軸細胞より形成された最先端の細胞は、横に分割して一方は毛狀葉として伸び、一方は頂端細胞 apical cell となりて留まるものと思われる (第1圖 A 参照)。又先端に頂端細胞を缺き、毛狀葉を出す基部細胞或いは毛狀葉の名残りの痕跡細胞のみ觀察される場合も相當多い (第1圖 D 参照)。いずれにしてもプロカルブを生じた毛狀葉の第二の關節は複雑な分裂をはじめ、第一の關節も横に分裂して數個の周心細胞となり、基部細胞及び頂端細胞もその部の周心細胞と全く區別がつかなく



第 1 圖

クモノシメゴケ *Herposiphonia terminalis* SEGI

A. 頂端細胞 (a), 基部細胞 (b), 痕跡細胞 (s) 及び毛狀葉 (t) を有する短條の頂端部 (×100)

B-E. 短條の種々の頂端部を示す (×100)

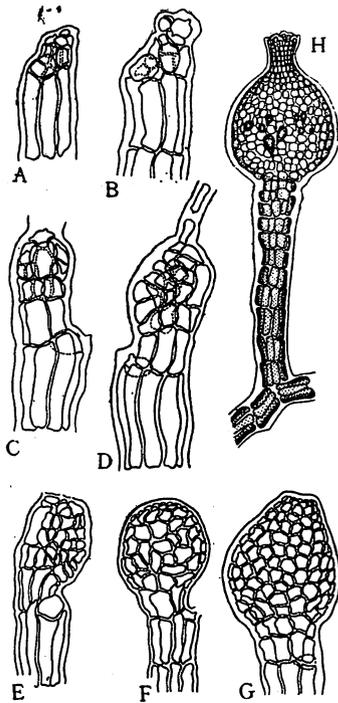
F. 長き毛狀葉を有する短條の頂端部 (×65)

なる。プロカルブが発達すると、普通第三の關節の細胞は押しつぶされた如き形にて、プロカルブの頂部に残り、第四關節以下は脱落する (第1圖 E 及

び第2圖 A, B, C 参照) も、第2圖 D に示す如くかなり後まで残存するものもある。かくて囊果は短條の頂端に頂生すると見られる (長條には形成されない)。囊果を有する短條は他のものより太く、且つ頑強で長い (但し關節の數及び周心管の數は他のものと變らない)。囊果は長く且つ太くなつた短條の頂端に頂生し、單獨に生じ、壺形をなし、頂端に長い頸と裂口を有し、大きく、 $390\sim 570\times 600\sim 825\mu$  位の大きさを有する (第2圖 H 参照)。

本種と外國産の *H. tenella* (C. AGARDH) NAEGELI と比較するに、後者は FALKENBERG の記載及び圖 (ENGLER u. PRANTL'S, *Natürlichen Pflanzenfamilien*, I. Teil Abt. 2 (1897) p. 459, Fig. 258. A) より判断すれば、囊果は短條に側生し、且つその形は “kugelig” 又は “eiförmig” なるも、本材料にては前述の如くにして斯様なことは全くない。又 BÖRGESSEN の *H. spec.* (*Mar. Alg. of the Dan. West. Ind.*, vol. II (1915~1920) p. 474. fig. 431) に於いては、枝の先端が “renewed growth” すること多きも、本海藻にては斯様なこと又なく、囊果は必らず頂生する。

以上の如き差異により本海藻を *H. terminalis* SEGI と命名し、その詳細な記載等は近刊の三重縣立大學水産學部報告 (歐文) に譲りたいと思う。



第2圖

クモノシヒメゴケ

*Herposiphonia terminalis* SEGI

A-G. 囊果の形成 (×50)

H. 成熟せる囊果 (×15)